

第 34 回国民文化祭・にいがた 2019
第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

基 本 構 想

平成 29 年 8 月

目 次

I	基本的な考え方	1
1	基本理念	
2	取組方針	
II	開催概要	5
1	名 称	
2	テーマ等	
3	会 期	
4	会 場	
5	主催者	
6	事業展開の方向	
7	シンボルマーク	
8	ロゴマーク	
9	マスコットキャラクター	
	策定委員会、検討会議委員名簿	8

I 基本的な考え方

1 基本理念

新潟は大きな県です。日本海に面し、面積は 12,584k m²で全国 5 位、人口は約 230 万人で全国 15 位となっています。また、本州の海岸線は 331.0km と非常に長く変化に富んだ海岸美を形成しているほか、砂丘が発達しており、全長 70km にも及ぶ新潟砂丘は国内最大級です。県境は山々に囲まれ、新潟平野を潤す信濃川や阿賀野川の二大河とともに、数多くの河川が日本海に注いでいます。さらに新潟市の北西約 45km には佐渡島が、その北東には粟島があり、風光明媚で豊かな自然と物産に恵まれています。

文化について言えば、南北から上中下越地方、そして佐渡島、また山間部と海岸部、信濃川と阿賀野川のそれぞれの流域など、それぞれに特色ある文化が育っています。方言も標準語に近いというものの、地域によってかなり差があり、佐渡では京ことば、長岡では三河弁、下越地方では東北弁が混じります。これらをなべて「新潟」の文化として総括するコンセプトを見つけることは、かなり難しい仕事です。

地政学的視点からみた新潟

新潟県を南北に流れる信濃川上流の河岸段丘などには、すでに約 3 万年前から人々が暮らしていました。信濃川上・中流域では、縄文時代を代表する「火焰型土器」が数多く発見されています。

最古の記録では『古事記』や『風土記』に、出雲の国から大国主神（おおくにぬしのかみ）が、越（こし）の沼河比売（ぬなかわひめ）という美しい乙女にプロポーズするために、はるばる糸魚川を訪れたという、「越後美人伝説」の記述がありますが、これは同時に最古の日本海舟運を象徴する記録とも言われます。この糸魚川は南北に広がる長大な新潟県のほぼ南限にあり、ここから駿河湾にかけて本州を東西に二分する大地溝帯（フォッサマグナ）が走り、世界ジオパークに指定されています。北の県境は当時、古代の大和朝廷の勢力が及ぶ北限でもあり、近年その周辺に前期古墳が発見されています。その後、東北の蝦夷などの反乱に備えるために磐船柵（いわふねのさく）や淳足柵（ぬたりのさく）が築かれたことなどが史書に記されており、東西南北の文化が触れあう、地政学的に見てきわめて特色のある地域であったとすることが出来ます。

新潟文化の萌芽

古代から中世に時代が移る頃、ようやく越後国という国のかたちが見えてきます。この時期は、越後国と佐渡国は分かれ、それぞれに国府があり国分寺がおか

れていました。とくに佐渡国は、承久の変に敗れた順徳院、正中の変の首謀者とされた日野資朝(ひのすけとも)、前衛歌人の京極為兼、能の大成者の世阿弥元清、宗教の改革を目指した親鸞や日蓮といった人たちが、信仰や思想の対立から罪せられ流された遠流の地として知られるようになります。京の都から遠く離れたこの北辺の地に、初めて文化の種をまいたのがこの人たちでした。

日本海舟運と上方文化

戦国武将・上杉謙信が越後国を統一した頃には、農業技術の発展により広大な越後平野は全国有数の米産地となりました。今日に至っても新潟県は日本一の米どころであり、海山に囲まれた豊富な食材をふんだんに用いた、豊かな「食文化」の発信地としても知られています。

謙信は主要な繊維原料である青苧(あおそ)の増産に努め、京都にこの特産品の「座」が開かれていました。製塩にも力を入れ、関東一円に販売網を持っていました。上杉家はまた、佐渡金銀山も手中に収めており、これらがやがて、新潟の文化を形成する経済的な原動力となっていきます。

これらの物産を上方に運ぶ手段が日本海の沿岸航海によって開けた「北前船(きたまえぶね)」と呼ばれる海運でした。北前船が運んだのは物資だけではありません。当時先進地域だった京大坂の上方文化を日本海側にもたらしたのです。

古地図を見ると、本州は南北に極端に湾曲し、その円弧の中央に能登半島が突きだし、これと並んで佐渡島が描かれています。その向かい側が新潟であり、当時の海上交通の要をなす、重要な中継地点であったことが分かります。新潟港は安政の五カ国条約で挙げられた「開港五港」の一つであり、明治期以降、現在も引き続き日本海側を代表する拠点港として発展しています。

東西文化の丁字路(ていじろ)

江戸時代、佐渡金銀山から産出される金銀は江戸幕府の経済的基盤を支える重要な産業に発展し、江戸から佐渡へのルートが整備され、将軍のお膝元である江戸との交流が盛んになっていきました。この時点で新潟は海路では上方文化、陸路では江戸文化と互いに交わる、独特の「文化の丁字路」を形成することとなりました。東京遷都後、街道は近代的な鉄道に変わり、首都東京との結びつきはますます強まっていきました。

新潟の文化の多様性

江戸時代の越後は、まるで碁石をばらまいたように、親藩、外様、譜代の中小大名の領地、それと幕府直轄の天領が入り乱れる「越後十三藩(最大石高は高田の榊原藩十五万石)」という支配体制が幕末まで続きます。それぞれに囲い込まれた地域が、その自然や民俗的風土を生かしつつ、独自のコミュニティ文化を創造してきました。国指定の伝統的工芸品は、現在13産地、16品目にのぼり、これ

は京都府に次いで全国で2番目の多さです。また、地域の祭りなど、その余暇の楽しみから生まれたのが、「佐渡おけさ」を始めとする、全国でも名だたる民謡（民踊）であり、新潟はその宝庫だとも言われてきました。とりわけ佐渡島には、上方文化の香りを伝える能楽や文弥人形浄瑠璃、そして国際的にも知られるようになった鬼太鼓などの郷土芸能が、今なお受け継がれ演じられています。

また新潟は冬の夜長を過ごすための民話や伝説、ことわざの宝庫でもあり、多様な語りものや方言が今なお息づいています。その「語りの文化」の担い手でもあったのが、越後瞽女（ごぜ）と呼ばれた盲目の女性芸能者でした。こうした「語りの文化」の伝統から、現代の日本文化を代表する「マンガ・アニメ」の分野で活躍する、数々の人気マンガ家やアニメクリエイターを輩出しています。

「文化」とは何か

ここで改めて「文化」とは何かを考えてみましょう。文化財の数でしょうか？先人が残した文化遺産を後世に伝えることは、もちろん大切な仕事ですが、もっと重要なのは、文化を生み出す活力であり、豊かな文化的創造力です。新潟の文化について語るとき、文化財という遺産ではなく、文化そのものを創造してきた先人のマンパワーに注目したいと思います。新潟の文化の特色は、文化財という「モノの文化」ではない「人の文化」にあるといえるのではないのでしょうか。

幕末から明治、大正、昭和にかけての時期、近代化を目指した日本という国家の歩みとともに、その発展に寄与し、それを支えた人物が続々と現れています。綺羅（きら）星（ぼし）の如くといっても、過言ではありません。これらの人たちの活躍の舞台は主として東京でした。しかしかれらが新潟人であったことは間違いありません。とくに目立つのは、医学（池田謙齋、入沢達吉、長谷川泰、平澤興）、漢学（鈴木虎雄、諸橋轍次（もろはし てつじ）、倉石武四郎）、美術（土田麦僊（つちだ ばくせん）、小林古徑（こばやし こけい）、横山操）、文学（會津八一、坂口安吾、小川未明、堀口大学、西脇順三郎）の分野で全国でもトップクラスの人材を輩出しています。

新潟人そして「人の文化」

国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の新潟県開催では、「人」を中心において、すべての人がさまざまな文化に「ふれる」こと、地域の大切な文化や先人の営みを、次代を担う子どもや若者に「つたえる」こと、交流を通じて喜びや感動を共有し、新しい文化の創出に「つなぐ」こと、さらに文化と観光、産業等が連携して文化の幅を「ひろげる」ことを目指します。

また、何よりも未来を担う子どもや若者に向けて、新潟の「人の文化」の力強さを発信していきます。

先に触れた東西文化が融合する「丁字路」を新潟県の地図に重ね合わせると、「人」という文字にも見えてきます。

この祭典を機に新潟の文化の将来の発展を展望したとき、丁字路を突き抜けて、世界と結ぶ「文化の十字路」が見えてきます。

2 取組方針

(1) ふれる

県民が、国民文化祭及び全国障害者芸術・文化祭に主体的に関わり、多様な文化活動や文化財にふれる機会を増やすことにより、さまざまな人々との交流を通じて、新潟県の文化活動の活性化と更なる発展を図ります。

(2) つたえる

歴史的、地理的風土に培われ県内各地で継承されている伝統文化や芸術、先人の営み、地域に根差した産業文化など、新潟文化の多様性を再認識するとともに、国内外に魅力を発信します。

(3) つなぐ

多様な文化、多彩な人々の交流を通じて、喜びや感動の共有、多様性を理解し尊重する心の醸成、さらには新しい文化の萌芽などを促し、未来へとつなげていきます。

(4) ひろげる

この祭典を契機に多くの人たちとの交流の輪が広がるとともに、地域の活性化や交流拡大も図っていきます。

Ⅱ 開催概要

1 名 称

第 34 回国民文化祭・にいがた 2019
第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

2 テーマ等

【テーマ】 文化の丁字路 ～西と東が会う新潟～

北前船によって海路から上方文化、陸路から江戸文化が新潟の地で交差・融合し、「文化の丁字路（ていじろ）」が形成されました。

丁字路を日本地図に重ね合わせると、「人」という文字にも見えてきます。

西と東が会う、ここ新潟から、「人の文化」を世界へ、そして未来へ発信していきます。

【キャッチフレーズ】 文化ふっとつ新潟！

「ふっとつ」は“量が多い”、“たくさん”という意味の方言で、下越地方の一部で使われています。

3 会 期

平成 31 年 9 月 15 日(日)～11 月 30 日(土) (77 日間)
新潟で文化の秋、実りの秋を楽しめる時期に設定します。

4 会 場

- 開会式・オープニングイベント：朱鷺メッセ（県都にあり、収容力のある施設）
- 会期中、新潟県内各地で多彩な文化イベント等開催します。

5 主催者

文化庁、厚生労働省、新潟県、新潟県実行委員会、県内市町村、文化団体等

6 事業展開の方向

(ふれる)

- 県民一人ひとりが、さまざまな形で文化にふれ、文化活動に参加・交流できるよう、期間中は、県内各地で多彩な催しやイベントが開催されるよう取り組みます。
- 子どもから高齢者、障害者や外国人など全ての人がアクセスでき、楽しめる祭典を目指します。

(つたえる)

- 地域が主体となって地域の景観やまつり、伝統芸能、文化財などの地域文化の掘り起しを行い、これら地域文化を活用した事業展開を進めます。
- 次世代を担う子どもたちに、優れた文化芸術や地域文化、偉人、地場産業などを体感する機会を提供し、さまざまな文化に対する理解を進め、地域への誇りと愛着を持てるような取組を進めます。
- SNSを含むインターネットをはじめとした各種媒体の活用、観光分野をはじめ、さまざまな団体・組織との情報共有を図り、連携して国内外へ発信します。

(つなぐ)

- 異分野間のコラボレーションや、若者や留学生、障害者などの参画を進め、祭典をきっかけに新しい文化の創出、価値の創造にもつながるように取り組みます。
- 障害の有無にかかわらず、文化芸術活動を通じて感動を分かち合い、相互理解を深めます。
- 国内外から訪れる方たちを、文化を通して新潟と「つなぐ」ボランティアなどの人材育成に取り組みます。

(ひろげる)

- 地域文化に観光や産業、食等を連携して、各地域で彩り豊かなイベント等を展開し、国内外から多くの人を呼び込みます。
- 異なる文化背景を持つ人たちや、世代間での交流・連携を進め、新潟文化の幅を拓げ、魅力を高めます。

7 シンボルマーク

統一のシンボルマークとして、第1回(昭和61年、東京開催)から次のデザインが採択されています。



文化は人間の知恵であり、秩序ある生活との結合であります。限りなく広がる文化へのあこがれを、歓喜の人形(かた)の構成でイメージしたデザインです。日本古代の古代紫を基調に、明るさを加えて、新しい日本の未来色のイメージにした色彩計画です。

福田繁雄(グラフィック・デザイナー)

8 ロゴマーク

新潟開催に向けた機運醸成を図るため、公募により決定します。

若者世代の参加意識を高め、育成する観点から公募対象を若者(30歳以下)に限定して行います。

9 マスコットキャラクター

新潟県宣伝課長の「トッキッキ」を基本に検討します。

国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭の開催に向けて、機運を盛り上げ県民の皆さんの参加意欲を高めていきます。



新潟県国民文化祭基本構想策定委員会 委員名簿

氏 名	役 職 等	備 考
神林 恒道	にいがた文化の記憶館館長 新潟市會津八一記念館館長 大阪大学名誉教授	座 長
竹石 松次	株式会社新潟放送代表取締役会長	
橋本 博文	新潟大学人文学部教授	
横山 秀樹	新潟市新津美術館館長	

(五十音順・敬称略)

新潟県国民文化祭基本構想検討会議 委員名簿

氏 名	役 職 等	備 考
石田 美紀	新潟大学人文学部准教授	
大田 朋子	エッセイスト、新潟方言・郷土史研究家	
神林 恒道	にいがた文化の記憶館館長 新潟市會津八一記念館館長 大阪大学名誉教授	座 長
北山 晃也	一般社団法人新潟県商工会議所連合会事務局長	
小林 克多	公益財団法人新潟県文化振興財団事業課長	
白石 展子	合同会社エージェントスタイル代表	
関谷 政友	社会福祉法人新潟県社会福祉協議会常務理事	
早福 亮	公益社団法人新潟県観光協会事務局長	
中田 敏夫	一般社団法人新潟県民謡協会代表理事	

(五十音順・敬称略)